動・静脈血栓形成過程に関する基礎的研究

一 走査および透過電子顕微鏡による観察 —

奈良県立医科大学第2外科学教室

金雄

EXPERIMENTAL STUDY OF ARTERIAL AND VENOUS THROMBUS FORMATION BY SCANNING AND TRANSMISSION ELECTRON MICROSCOPE

YUICHI KIN

Department of Neurosurgery, Nara Medical University Received August 11, 2002

Abstract: The process of thrombus formation at arterial and venous endothelial surfaces was examined by scanning electron microscope (SEM) and transmission electron microscope (TEM) in a photochemical occlusion model.

The rats were divided into the following 4 groups after the injection of rose bengal : 1) control group (n=5) without illumination; 2) group A (n=10) irradiated for 1 min; 3) group B (n=10) for 5 min; 4) group C (n=14) for 10 min at cervical artery and vein.

As a result, SEM findings showed adhesion of blood platelets and endothelial damage in neither artery nor vein in control and A groups. Plasma membrane damage of endothelial cells (i.e. plasmalemmal pits, the crater-like structure associated with tear between endothelial cells, and decreased number of microvilli) was recognized in arterial wall, but these changes were not observed in vein in group B. Adhesion of blood platelets in addition to endothelial cell membrane obstacle in artery was remarkable by SEM examination and tear between arterial endothelial cells was found by TEM examination in group C. The degree of adhesion of platelets was clearly remarkable in artery compared with vein.

In conclusion, endothelial cell membrane injury, tear between endothelial cells and endothelial detachment occur before adhesion of blood platelets and thrombus formation in a blood vessel occlusion model by photochemical reaction. These changes occur significantly earlier in artery than in vein.

Key words : arterial and venous thrombosis, endothelial cell, photochemical dye, electron microscope, rat

はじめに

血液は通常,流動性を維持して血管内を流れており決 して凝固することはない.しかし,ある病的状態におい ては血栓を形成し血流を途絶させて重大な臓器障害を惹 起する.生体内でどのように病的血栓が形成されるかは 血栓症の病態を考えるうえで非常に重要であり、その理 解に基づいて予防・治療の対策がとられる。

血管内皮細胞障害から血栓形成に到る病態を調べる方法として,実験レベルでは様々な方法が試みられている. 光感受性色素(rose bengal)を用いた血管閉塞モデルは, 動脈および静脈において広く用いられている1~13).動脈



Fig. 1. The artery and vein were cut longitudinally in a major axis direction and opened, and then fixed by vascular clips not to make folds by following maneuver.

閉塞モデルにおける病態生理および血管内皮の電子顕微 鏡的考察は報告されているが¹⁹⁻²⁰,静脈閉塞に関する報 告はない.また、本モデルでは、動・静脈間で血栓化ま でに要する時間に違いが認められる.脳血管を例に挙げ ると、脳動脈では2分間ほどで血栓化するのに対して、 脳静脈では10分間ほど照射しなければ血栓化しない.

本研究では、動・静脈間で血栓が生じる過程での内皮 細胞障害の有無およびその程度の差異を検討することを 目的とした.そのために、ラットの頸部動・静脈を用い て、動・静脈間で血栓が生じる過程での内皮細胞障害を 経時的に走査電子顕微鏡(scanning electron microscope: SEM)および透過電子顕微鏡(transmission eletron microscope: TEM)を用いて観察した.

対象と方法

雄性ウィスターラット(n=39, 体重 380 ~ 490g)を用 い,抱水クロラール(36mg/100g体重)の腹腔内投与で全 身麻酔を行った.自発呼吸下に,手術用顕微鏡を用いて ラットの頸部動・静脈を露出した後,rose bengal(Sigma Chemical CO., St. Louis, U.S.A.)を 0.2ml/100g体重で 1 ~ 2分をかけて緩徐に静脈内投与した.その後,露出 した頸部動・静脈に対して,xenon ランプで 550nm 波 長の緑色光を同時に照射した.その際,頸部動・静脈に 均等に照射されるように光照射面に留意した.

光照射時間毎に, control群:光照射時間0分間群(n=5), A 群:光照射時間1分間群(n=10), B 群:光照射時間5 分間群(n=10), C 群:光照射時間10分間群(n=14)の4 群に分類し,血栓化の程度,内皮障害の有無およびその 差異について, SEMを用いて電子顕微鏡的に観察した. 10分間群ではTEMも用いて観察を行った.内皮損傷の 程度の指標として、①microvilliの減少、②細胞膜障害、 ③細胞接合部の解離、④内皮剥離の4項目に着目し、 各々の項目について観察された検体数を、動・静脈間で 比較検討した。

試料の作成については,電子顕微鏡を用いて血管内皮 を観察するため、ラットを緑色光照射後に4% paraformaldehydeで灌流固定を行った. 灌流固定後に頸部動・静 脈を、照射点を中心にそれぞれ長軸方向に縦切開して観 音開きにし、後の操作で血管壁に皺が生じぬように血管 クリップで挟んで保持した(Fig.1). paraformaldehyde を洗い出すため、試料を0.25Mシュークロース液に一昼 夜置いた.1% OsO₄ (osmium tetroxide) 固定液で1~2 時間の後固定の後に、上昇アルコールシリーズ(50%・ 70% · 80% · 90% · 95% · 100% · 100%の冷エタノール を各15分ごとに交換)で脱水を行った.以後の行程は, SEM ではアルコールを酢酸イソアミルに浸して置換し, 液体 CO₂を用いた臨界点乾燥の後に(Critical Point Dryer HCP-1, HITACHI, Ibaraki, Japan), イオン蒸 着装置(JUC-5000 Magnetron Sputtering Device Ultra Fine Coat, Nihon Denshi, Tokyo, Japan) C platinum coating を行った. TEM ではL-R white を用いて包埋を 行い,超薄切片を作成した.電子顕微鏡はSEM では JSM-6301F(Nihon Denshi, Tokyo, Japan) &, TEM ではJEM1200EX(Nihon Denshi, Tokyo, Japan)を用 いた.

結 果

control 群(光照射0分間群)では頸部動・静脈のどちら においても血小板の付着はなく、電顕(SEM)所見上,明 らかな内皮細胞の障害は認められなかった. A 群(光照



Fig. 2. Observations of the 1 min-illuminated segment of the endothelial surfaces of the cervical artery and vein by scanning electron microscope (SEM). Note the absence of luminal platelets or other blood elements and endothelial injury. (a) cervical artery. × 30 (b) cervical artery. × 1,100 (c) cervical vein. × 30 (d) cervical vein. × 1,000

射1分間群)でも control 群と同様に動・静脈ともに血小 板の付着は認められず、内皮細胞の変化は認められなか った(Fig.2) (Table 1, 2). B 群(光照射5分間群)では 血小板の付着は動脈で1例のみ認められた.動脈内皮で は内皮細胞膜障害を示す plasmalemmal pitの出現が4例, 細胞接合部の解離を示す crater-like structure の出現が 4例, microvilliの減少が8例で認められたが,静脈内皮 では認められなかった.本群では動・静脈内皮とも内皮 剥離は認められなかった(Fig.3A, B) (Table 1, 2). C 群(光照射10分間群)では血小板の付着は動脈で顕著で, 静脈でも1例に認められたが、付着の程度は動脈の方が 強かった(Fig.4A, B). 本群では microvilli の減少は動 脈では全例に認められ、静脈では10例に認められた.細 胞膜障害は動脈で13例,静脈では5例,細胞接合部の解 離は動脈で9例,静脈で3例,内皮剥離は動脈で5例, 静脈で2例に認められた. (Table 1, 2). B群とC群に おいて, microrilli の減少の観察頻度は, 動脈内皮の方 が静脈内皮よりも有意に高かった(p=0.035). TEMでは

動脈内皮接合部の解離が認められた(Fig.5). なお,いず れの各群においても,肉眼的には動・静脈ともに血栓化 による閉塞は認められなかった.

考 察

健常な内皮細胞では、血栓抑制因子の産生が血栓亢進 因子の産生よりも勝るため抗血栓性が維持されている. しかし、内皮細胞が異常な刺激を受けると、これら因子 の産生バランスが破綻し、血栓形成(もしくは出血)とい う異常状態に陥る.血栓症の第一ステップとして血小板 の血管壁への粘着が必須であり、抗血栓機能を有する血 管内皮の脱落・剥離または機能障害が前提となる.本研 究に用いた光感受性色素による血管閉塞モデルは、光感 受性色素である rose bengal 投与後に 550nm 波長の緑色 光を照射することで活性酸素が発生し、それによって内 皮障害を生じて血小板が内皮に癒着し、その後血小板同 士の反応により、フィブリンを欠く血小板主体の血栓(白 色血栓)が形成されるというものである^{14~18}.動脈閉塞モ

	decrease of microvilli	endothelial membrane injury	tear between endothelial cells	endothelial detachment
1 min (n=10)	0/10	0/10	0/10	0/10
5 min (n=10)	8/10	4/10	4/10	0/10
10min (n=14)	14/14	13/14	9/14	5/14

Table 1. Damage score of morphologic findings by SEM in arterial endothelium

Table 1, 2 : In four items of SEM findings of arterial and venous endothelial surfaces; ① decrease of microvilli, ② endothelial membrane injury, ③ tear between endothelial cells, ④ endothelial detachment. In each case the morphological changes were evaluated.

	decrease of microvilli	endothelial membrane injury	tear between endothelial cells	endothelial detachment
1 min (n=10)	0/10	0/10	0/10	0/10
5 min (n=10)	0/10	0/10	0/10	0/10
10min (n=14)	10/14	5/14	3/14	2/14

Table 2. Damage score of morphologic findings by SEM in venous endothelium

Table 1, 2 : In four items of SEM findings of arterial and venous endothelial surfaces; ① decrease of microvilli, ② endothelial membrane injury, ③ tear between endothelial cells, ④ endothelial detachment. In each case the morphological changes were evaluated.

デルにおける病態生理および血管内皮の電子顕微鏡的考察は過去にも報告されている¹⁹⁻²⁶⁾. 静脈閉塞に関しては, 永田らが本モデルを用いて閉塞を来したラット脳皮質静脈の SEM による血管断面を報告しているが, 静脈内腔 が白色血栓により完全に pack されていたため, 静脈内 皮の変化は観察しえなかった²⁷⁾.本モデルにおいては, 動・静脈間で血栓化までに要する光照射時間に違いが認 められることから,本研究では,同一個体(ラット)にお いて,光感受性色素を静注後に動・静脈で同時に光照射 を行い,血管内皮を電子顕微鏡的に観察・検討した.

rose bengalを用いた血栓化モデルについては、Abby R. Saniabadiらはモルモットの大腿動脈内皮をSEMで観

察し、内皮細胞間の細胞接合部の解離と、それに続く細胞膜の破壊・核の露出を報告している¹⁹⁾. Takiguchi ら は同モデルを TEM で観察した結果、内皮細胞が基底膜 から剥離している状態を示している²⁰⁾. Matsuno らはラ ットの大腿動脈内皮を SEM で観察し、膨化した内皮細 胞に血小板が無数の偽足を伸ばして癒着している様子を 示し²¹⁾, Takiguchi らも糖尿病ラットの大腿動脈で同様 の報告をしている²²⁾. W. D. Dietrichらはラットの脳皮質 動脈を SEM, TEM の両方で観察しており、細胞膜障害 を示す plasmalemmal pit の出現、内皮細胞接合部の解 離を示す crater-like structure の出現を報告し、TEM では内皮細胞のミトコンドリアの膨化や血小板が基底膜



Fig.3(A). Observations of the 5 min-illuminated segment of the endothelial surfaces of the cervical artery by SEM. The high frequency of plasmalemmal pits and decreased number of microvilli were demonstrated. Note crater-like structures associated with endothelial junction. cervical artery (a) × 40 (b) × 1,000 (c) × 4,500 (d) × 15,000



Fig.3(B). Observations of the 5 min-illuminated segment of the endothelial surfaces of the cervical vein by scanning electron microscope SEM. No definite morphological changes were found. cervical vein $(e) \times 1,000$ (f) $\times 4,500$

金



Fig. 4 (A). Observations of the 10 min-illuminated segment of the endothelial surfaces of the cervical artery by scanning electron microscope SEM. Platelet aggregates adhering to the luminal surface of a cervical artery. The degree of the adhesion of platelets was clearly stronger in artery than in vein. cervical artery (a) × 30 (b) × 1,000 (c) × 4,000 (d) × 4,500



Fig. 4 (B). Observations of the 10 min-illuminated segment of the endothelial surfaces of the cervical vein by scanning electron microscope SEM. Note the decreased number of microvilli. cervical vein (e) \times 1,000 (f) \times 4,000



Fig. 5. Observations of the 10 min-illuminated segment of the endothelial surface of the cervical artery by transmission electron microscope (TEM). Tear between endothelial cells were demonstrated. cervical artery \times 12,000

に癒着している様子を示している²³⁾.我々が渉猟しえた 限り,動・静脈において血栓が生じる過程での内皮細胞 障害の有無およびその程度の差異を,時間経過ごとに電 子顕微鏡で観察し比較・検討した報告はない.

本実験では、光照射時間1分間群では頸部動・静脈の どちらにおいても、電顕(SEM)所見上、血小板の付着は なく、内皮細胞の形態変化も認められなかった、一方、 5分照射群では動脈において内皮障害を示す所見(plasmalemmal pits や crater-like structure の出現, microvilliの減少)が認められたが、静脈内皮では認められなか った、10分間照射すると動脈では血小板の癒着が顕著で あったが、静脈では1例でのみ認められただけであった。

我々は内皮損傷の程度の指標として、①microvilliの 減少,②細胞膜障害,③細胞接合部の解離,④内皮剥離 の4項目に着目し,各々の項目について観察された検体 数を,動・静脈間で比較した(Table 1, 2).5分間照射 群と10分間照射群の各観察項目毎に2×2分割表を用い て動・静脈間で観察頻度をχ二乗検定したところ,microvilliの減少について有意差が認められた(p=0.035).今回 の観察結果から,静脈内皮でも動脈内皮と同様の血管内 皮障害が生じていることが示唆されるが,rose bengal投 与後の光照射時間が同じであれば,各項目毎の血管内皮 障害の程度は静脈よりも動脈の方が大きく,故に動脈の 方が血栓化を来しやすいことが示された.なお,血管内 皮の機能的差異に関しては、D'Angelo らは tPA 活性に ついて静脈のほうが動脈よりも明らかに高いことを示し ており²⁰, このことからも動脈の方が血栓化を来しやす い可能性が考えられる.

本モデルにおいて、何故、動脈内皮の方が静脈内皮よ りも損傷されやすいのかについては、今後、動・静脈に おける潅流圧・血流等の血行力学的な因子の違いが内皮 損傷に及ぼす影響²⁰⁾や tPA 活性などの内皮細胞の機能的 な差異の影響を検討する必要があると思われる。

まとめ

光感受性色素(rose bengal)を用いた血管閉塞モデル において、血小板の付着・血栓化には、電顕所見上、内 皮細胞膜の障害・細胞接合部の解離・内皮剥離などの内 皮障害が認められ、同障害は、静脈よりも動脈において 顕著であり、故に動脈の方が血栓化を来たしやすいこと が証明された.

文 献

- Nakase, H., Heimann, A. and Kempski, O. : Local cerebral blood flow in a rat cortical vein occlusion model.J. Cereb. Blood Flow. Metab. 16 : 720-728, 1996.
- 2) Nakase, H., Nagata, K., Otsuka, H., Sakaki,

金

T. and Kempski, O.: Local cerebral blood flow autoregulation following "asymptomatic" cerebral venous occlusion in the rat. J. Neurosurg. 89: 118-124, 1998.

- 3) Nakase, H., Kempski, O., Heimann, A., Takeshima, T. and Tintera, J. : Microcirculation after cerebral venous occlusions as assessed by laser Doppler scanning. J. Neurosurg. 87 : 307– 314, 1997.
- 4) Sakaki, T., Kakizaki, T., Takeshima, T., Miyamoto, K. and Tsujimoto, S. : Importance of prevention from intravenous thrombosis and preservation of the venous collateral flow in bridging vein injury during surgery. An experimental study. Surg. Neurol. 44 : 158-162, 1995.
- 5) Otsuka, H., Nakase, H., Nagata, K., Ueda, K., Kempski, O. and Sakaki, T. : Effect of Age on Cerebral Venous Circulation Disturbances in the Rat J. Neurosurg. 93 : 298-304, 2000.
- 6) Nagata, K., Nakase, H., Kakizaki, T., Otsuka, H. and Sakaki, T. : The effect of brain compression under venous circulatory impairment. Neurol. Res. 22 : 713-720, 2000.
- 7) Nakase, H., Nagata, K., Otsuka, H., Sakaki, T. and Kempski, O. : An experimental model of intraoperative venous injury in the rat.Skull Base Surgery 123-128, 1997.
- 8) Kaido, T., Nakase, H., Nagata, K., Otsuka, H. and Sakaki, T.: Intermittent constant exposure for brain retraction injury under venous circulatory impairment. Neurol. Res. 23: 739-744, 2001.
- 9) Frerichs, K.U., Deckert, M., Kempski, O., Schürer, L., Einhäupl, K. and Baethmann, A. : Cerebral sinus and venous thrombosis in rats induces long-term deficits in brain function and morphology – evidence for a cytotoxic genesis. J. Cereb. Blood Flow. Metab. 14 : 289–300, 1994.
- 10) Fries, G., Wallenfang, T., Hennen, J., Velthaus, M., Heimann, A., Schild, H., Perneczky, A. and Kempski, O. : Occlusion of the pig superior sagittal sinus, bridging and cortical veins; multistep evolution of sinus-vein thrombosis. J. Neurosurg. 77 : 127-133, 1992.
- 11) Gotoh, M., Ohmoto, T. and Kuyama, H.: Experimental study of venous circulatory disturbance

by dural sinus occlusion. Acta. Neurochir. (Wien) **124**: 120-126, 1993.

- 12) Ungersbock, K., Heimann, A. and Kempski, O.: Cerebral blood flow alterations in a rat model of cerebral sinus thrombosis. Stroke 24 : 563-570, 1993.
- 13) Inamo, J., Belougne, E. and Doutremepuich, C.: Importance of photo activation of rose bengal for platelet activation in experimental models of photochemically induced thrombosis. Thrombosis Res. 83: 229-235, 1996.
- 14) 中瀬裕之, Heimann A., Kempski O., 榊 寿右: 脳静脈灌流障害の病態と治療に関する基礎的研究. 静脈学 7:393-398, 1996.
- 15) Nakase, H., Kakizaki, T., Miyamoto, K., Hiramatsu, K. and Sakaki, T.: Use of local cerebral blood flow monitoring to predict brain damage after disturbance to the venous circulation : cortical vein occlusion model by photochemical dye. Neurosurgery 37 : 280-286, 1995.
- 16) Lee, P.C.C. and Rodgers, M.A.J.:Laser flash photokinetic studies of rose bengal sensitized photodynamic interactions of nucleotides and DNA. Photochem. Photobiol. 45 : 79-86, 1987.
- 17) Kukreja, R.C., Kearns, A.A., Zweier, J.L., Kuppusamy, P. and Hess, M.L. : Singlet oxygen interaction with Ca-ATPase of cardiac sarcoplasmic reticulum. Circ. Res. 69 : 1003-1014, 1991.
- 18) Matsuno, H., Uematsu, T., Umemura, K., Takiguchi, Y., Asai, Y., Muranaka, Y. and Nakashima, M.: A simple and reproducible cerebral thrombosis model in rat induced by a photochemical reaction and the effect of a tissue plasminogen activator in this model. J. Pharmacol. Toxicol. Methods 29: 165-173, 1993.
- 19) Abby, R. Saniabadi, Uemura, K., Matsumoto, N., Sakuma, S. and Nakashima, M.: Vessel wall injury and arterial thrombosis induced by a photochemical reaction. Thrombosis and Haemostasis 868-872, 1995.
- 20) Takiguchi, Y., Hirata, Y., Wada, K. and Nakashima, M. : Arterial thrombosis model with photochemical reaction in guinea-pig and its property. Thrombosis Res. 67: 435-445, 1992.
- 21) Matsuno, H., Uematsu, T., Nagashima, S. and

(260)

Nakashima, M.: Photochemically induced thrombosis model in rat femoral artery and evaluation of effects of heparin and tissue-type plasminogen activator with use of this model. J. Pharmacol. Method **25**: 303–318, 1991.

- 22) Takiguchi, Y., Wada, K., Matsuno, H. and Nakashima, M.: Effect of diabetes on photochemically induced thrombosis in femoral artery and platelet aggregation in rats. Thrombosis Res. 63:445-456, 1991.
- 23) Dietrich, W.D., Watson, B.D., Busto, R., Ginsberg, M.D. and Bethea, J.R. : Photochemically induced cerebral infarction. Acta. Neuropathol. 72 : 315-325, 1987.
- 24) Dietrich, W.D., Watson, B.D., Wachtel, M.S., Busto, R. and Ginsberg, M.D.: Ultrastructural analysis of photochemically induced thrombotic stroke in rat brain. Stroke 15: 191, 1984.
- 25) Dietrich, W.D., Ginsberg, M.D., Busto, R. and

Watson, B.D. : Photochemically induced cortical infarction in the rat. J. Cereb. Blood Flow. Metab. 6 : 195-202, 1986.

- 26) Watson, B.D., Dietrich, W.D., Busto, R., Wachtel, M.S. and Ginsberg, M.D. : Induction of reproducible brain infarction by photochemically initiated thrombosis. Ann. Neurol. 17 : 497-504, 1985.
- 27) Nagata, K., Nakase, H., Kakizaki, T. and Sakaki, T.: Scanning electron microscopic (SEM) study of rat cortical vein occlusion. Current topics in phlebology 15-19, 1996.
- 28) D'Angelo, V., Villa, S., Mysliwiec, M., Donati, MB. and de Gaetano, G. : Defective fibrinolytic and prostacyclin-like activity in human atheromatous plaques. Thromb. Haemost. 39(2): 535-536. 1978.
- 29) 安藤醸二:内皮細胞機能の調節因子としての血流力. 細胞 27:18-21, 1995.